

瞬時にわかる意味 内容

「漢字で教えるとは、目と耳とに訴える教育であり、目と耳とを同時に働かせて行なう学習である」ということを申しますと、「では漢字でなくて、かなでもよいではないか」とおっしゃる方がいます。

「幼児にはかなの方がふさわしい」という古い固定観念にとらわれての発言でしょうが、「幼児には漢字の方がずっとふさわしい」という新しい事実をよくよく認識してほしいと思います。

しかし、“漢字で教える”こと理由はただそれだけではありません。漢字は“目で見る言葉”だからです。言葉ですから、漢字は意味と発音との二つの言語要素を備えています。だから、漢字を見れば、その意味と発音とが瞬時に頭にひらめきます。

例えば、花と鼻とは同じ“はな”という発音ですが、その字を見ればそれぞれその異なった意味内容を直に頭の中に思い浮かべることが出来ます。しかし“はな”というかなでは、単にその発音を思い浮かべられるだけで、その意味内容は少しも思い浮かべられません。その発音を土台に改めて考えてみなければなりません。

それも、“はな”には“花・鼻”のほかに“端・華・湊”などがあるので、それらを一つ一つ思い浮かべることが出来るというものではありません。それが漢字だと、一瞬のうちに思い浮かべることが出来るのです。

このように、かなは言葉の要素の一つである“発音”だけしか表わすことが出来ない文字ですから、“目で見る言葉”とは言えないのです。言葉の重要な要素の“意味”を備える漢字だけが“目で見る言葉”なのです。

「下駄箱の名前をかなで書いていた当時には、入園後一週間たっても、園児たちは自分の場所がわからないでうろうろしていたものです。しかし、漢字で書くようになってからは、入園たった一日でまごつく子供がいなくなりました」とはよく聞く言葉です。

漢字の名前はその子供だけのもので、見るからに個性があり、その子の全人格を表わしているように思われるものがあります。だから、それを見た瞬間にその子の顔が生き生きと目に浮かんで来るのです。

ところが、かなで書かれた名前は、どの子の名前も皆同じように見えて、その文字面からはその子の顔が少しも浮かんで来ません。だ

から、下駄箱のかな書きの名札の中から一つの名前を見付け出すのには、ひどく時間がかかるわけです。

漢字の名前は生き生きとしていて、個有の表情をもっています。だから、これを読もうとしている人に強く訴えるものがあり、従って読みやすいのです。

テレビに負けない読書の創造性

今までの教育は、初めは、かなばかりの本を読ませてきました。これが、テレビの盛んな今日、子供たちが書物を読みたがらなくなった原因の大きな一つです。

「テレビを見るから書物を読みたがらないのだ」と多くの人々が言います。テレビは、少しの努力もいらなくてよく解り、楽しいので、努力のいる読書はしたがるらないのだ、というのです。

しかし人間は、すべて努力を嫌い、楽なことばかりを求めているわけではありません。楽に出来ることを避け、困難を求める人も多くいます。ただ、全く不可能なことや、全く無味乾燥なことは、だれだってや

ろうとはしないでしょう。

かなばかりの本は、読んだ字が漢字のようにはその内容を頭の中に描き出すことを可能にしてくれないので、読書が無味乾燥になりがちです。また、漢字の多い本でも、漢字力の弱い今の子どもたちには、とても読めないと思わせてしまいます。

決して、テレビを見る、見ないには関係ないことです。その証拠に、幼児期に漢字教育を受けて強い漢字力をもった子どもは、テレビや漫画よりも、漢字の多い、内容の豊かな書物を喜んで読んでいます。

絵本の絵より、テレビの画面より、文字を読み、それによって頭の中に自由に描く絵の方がずっとすばらしいし、子どもの心を満足させるからだと思います。また、こういう読書によって想像力が活発になり、創造性の豊かな人間になって行くのだと思います。

書物は“本”と言われるように、人間の成長にとって欠くことの出来ない原動力となるものです。だから、一日も早く読書の楽しさを知り、読書の習慣を身につけることが、何よりも必要なことです。そのためには、初め漢字を与え、決してかなを与えないことが大切だ、ということをごぜひ知っていただきたいと思います。